

基準 1 使命・目的等

Ⅲ. 評価機構が定める基準に基づく自己評価

基準 1. 使命・目的等

1-1 使命・目的及び教育目的の明確性

《1-1 の視点》

1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

1-1-② 簡潔な文章化

(1) 1-1 の自己判定

基準項目 1-1 を満たしている。

(2) 1-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

八戸学院大学（以下、本学）は「神を敬し、人を愛する」という建学の精神に基づき、「広く豊かな教養を授け、深い専門の学術を探究せしめ、正しい道徳観と高い知性を有する民主的にして平和を愛好する人材を育成する」ことを目的とし、「八戸学院大学学則（以下、学則）」第 1 条に明記している。なお、本学の教育目的は、表 1-1-1 のとおりである。

表 1-1-1 教育目的

大学	八戸学院大学は、カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を授け、深い専門の学術を探究せしめ、正しい道徳観と高い知性を有する民主的にして平和を愛好する人材を育成することを使命・目的とする。
ビジネス学部 ビジネス学科	ビジネス学部ビジネス学科は、経営・会計・情報・商業等についての学びをふまえ、地域課題を分析し解決できる能力を備えたビジネスマインド、チャレンジシップを有し、地域発展に資する人材を育成する。
健康医療学部 人間健康学科	健康医療学部人間健康学科は、こころとからだの健康についての学びをふまえ、幅広い分野の研究・指導・実践ができ、現代社会における健康に関するニーズに対応できる人材を育成する。
健康医療学部 看護学科	健康医療学部看護学科は、豊かな感性と人間性を備え、日々進歩する看護の知識や技術に対応できる能力や地域の保健医療活動、健康増進に看護の実践者として貢献できる資質の高い人材の育成を目的とする。

【資料 1-1-1】八戸学院大学学則第 1 条

1-1-② 簡潔な文章化

上記表 1-1-1 のとおり、高校生や社会・一般の方々が理解できるような簡潔な文章で表記されている。

(3) 1-1 の改善・向上方策（将来計画）

学部・学科の使命・目的および教育目的の見直しを常に行い、必要な場合は速やかに変更する。その際、文章は簡潔化し、平易に表記する。

1-2 使命・目的及び教育目的の適切性

《1-2の視点》

1-2-① 個性・特色の明示

1-2-② 法令への適合

1-2-③ 変化への対応

(1) 1-2の自己判定

基準項目 1-2 を満たしている。

(2) 1-2の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

1-2-① 個性・特色の明示

本学の使命・目的および教育目的に基づいた特色は、次のとおりであり、その詳細については、学生に毎年度配布している「学生生活ハンドブック（学生便覧）」や本学公式ホームページに掲載して明示している。【資料 1-2-1】平成 29 年度学生生活ハンドブック（学生便覧）、【資料 1-2-2】八戸学院大学公式ホームページ（教育情報の公表）

- ① 建学の精神に基づいて、広く豊かな教養と高い知性を身につけた人材を育成するため、人間性を涵養すべく、リベラルアーツ「導入教育」の宗教関連科目を必修としている。さらに、幅広く深い教養を身に付けるために、リベラルアーツを「外国語を学ぶ領域」、「人としてのあり方を学ぶ領域」、「社会のあり方を学ぶ領域」、「自然と科学を学ぶ領域」の 4 領域に分類し、学生が各領域から多様な科目をバランスよく受講できるように配慮している。また、平成 27(2015)年度より学生のキャリア形成を支援するため、「キャリアデザインⅠ～Ⅷ」を導入した。
- ② 現代社会の多様なニーズに対応できる専門性と実践力を身につけた人材を育成するため、職業イメージや資格・免許の取得を念頭においたコース・プログラム制を導入し、学生の主体的な学修を促し、専門知識と技術が体系的に修得できるように、順序性を明確にした科目配置をしている。ビジネス学部ビジネス学科では地域発展に資する人材の育成を目指し、「経営コース」と「公共コース」を設け、健康医療学部人間健康学科では現代社会の健康ニーズに対応できる人材の育成を目指して、「スポーツ科学コース」と「健康科学コース」を設けている。健康医療学部看護学科では、看護師および保健師を養成するための科目を配置している。
- ③ 地域社会の経済・文化の発展に寄与する人材を育成するため、地域資源をキャンパスとして地域に根ざしたフィールドワークによる社会貢献を行っている。三陸復興国立公園内の種差海岸におけるフィールドワークは、学生の感性とアイデアを活かすキャンパスとなっており、学生が地域活性化のビジョンや方策について考える機会を提供している。また、地域に根ざした教育活動や社会貢献として、地域住民を対象とした公開講座と健康調査を行っている。公開講座は、地域住民に対して健康に関する学習機会を提供し、健康意識の向上を図ることを目的として行っている。本講座は、学生の研究発表も行っており、学生にとって地域への発信のよい機会となっている。さらに、学生が中心となって行っている地域住民に対する健康調査では、地域住民の健康増進、特に健康寿命の延伸に寄与することが期待されている。

1-2-② 法令への適合

大学設置基準第2条に基づき、学校教育法第83条（目的）を踏まえ、学則第1条第1項を「八戸学院大学は、カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を授け、深い専門の学術を探究せしめ、正しい道德観と高い知性を有する民主的にして平和を愛好する人材を育成する」ことを目的としている。各学科の教育目的は、学校教育法第83条（目的）を踏まえており、法令に適合している。学部・学科名称は、大学設置基準第40条の4（大学等の名称）を遵守しており、教育課程表に沿ったものである。

1-2-③ 変化への対応

本学の教育理念、教育目的、教育目標、三つのポリシーは、教育センター長の下で教務委員会が毎年度点検し、変更の必要がある場合は、八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部運営会議（以下、運営会議）に上程している。なお、学部の教育理念、教育目的、教育目標、三つのポリシーについては、平成 25(2013)年 1 月の運営会議で審議し、平成 25(2013)年 4 月 1 日に変更した。また、健康医療学部看護学科の増設に伴い、平成 28(2016)年 2 月の運営会議において同学部の教育理念、教育目的、教育目標を一部変更した。【資料 1-2-3】八戸学院大学公式ホームページ（健康医療学部の教育目的・教育理念・教育目標）

さらに、大学全体の三つのポリシーを見直し、平成 28(2016)年 3 月の運営会議において、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を一部変更した。

なお、学校教育法が平成 29(2017)年 4 月 1 日付で改正されることに伴い、平成 28(2016)年度中に三つのポリシーに関する全面的な見直しを行って、各ポリシー（方針）相互の一貫性を重視した内容に変更した。

(3) 1-2 の改善・向上方策（将来計画）

2 学部 3 学科に伴い、大学、学部・学科の教育理念、教育目的、教育目標および三つのポリシーについては、本学の使命・目的に基づき、法令適合性および個性・特色の明示という条件を確保しつつ、不断に見直しを行う。

1-3 使命・目的及び教育目的の有効性

≪1-3 の視点≫

1-3-① 役員、教職員の理解と支持

1-3-② 学内外への周知

1-3-③ 中長期的な計画及び 3 つの方針等への使命・目的及び教育目的の反映

1-3-④ 使命・目的及び教育目的と教育研究組織の構成との整合性

(1) 1-3 の自己判定

基準項目 1-3 を満たしている。

(2) 1-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

1-3-① 役員、教職員の理解と支持

本学の使命・目的および教育目的の実現に関わる重要事項については、運営会議において審議のうえ学長が決定する。学長、学部長、学科長、学長補佐、各センター長、大学評

価統括本部長、図書館長、地域連携研究センター長および事務局学務部長が運営会議の構成員となっており、決定された事項に対する教職員の理解と支持が遅滞することなく得られている。

また、本学の使命・目的および教育目的などの変更は学則改正を伴うため、運営会議の審議を経て理事会で決定され、役員が理解を得られている。

1-3-② 学内外への周知

学校教育法第 85 条（学部）、学校教育法施行規則第 172 条の 2（教育研究活動等の情報の公表）、大学設置基準第 2 条（教育研究上の目的）に基づき、本学公式ホームページの「教育情報の公表」に教育理念、教育目的、三つのポリシーを掲載している。また、学内において毎年度「学生生活ハンドブック（学生便覧）」に掲載し、学生および教職員に配布し周知している。受験生や保護者および社会・一般の方々に対しては本学公式ホームページのほか、「大学案内」および「入学者選抜試験要項」などに掲載し、周知を図っている。その他、大学オープンキャンパスや高校説明会では、具体的かつ簡潔な文章で周知している。【資料 1-3-1】八戸学院大学公式ホームページ（教育目的・教育理念・教育目標・三つのポリシー）、【資料 1-3-2】平成 30 年度版 八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部大学案内、【資料 1-3-3】平成 29 年度八戸学院大学入学者選抜試験要項

1-3-③ 中長期的な計画及び 3 つの方針等への使命・目的及び教育目的の反映

本学の使命・目的および教育目的に基づき、学部ごとの教育目的・教育目標の見直しを行い、三つのポリシーを明確化し、学生の受け入れから学位の認定までのプロセスを適正に構築した。さらに、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）に新たに求める高等学校での学習に関する項目を追加した。

平成25(2013)年度に設置された学長を責任者とする教育企画室では、八戸学院短期大学看護学科の4年制大学化を見据えた大学の組織構成の再編案が検討され、理事長に答申した。

平成27(2015)年度には、常任理事会直轄の総合企画室が設置され、中期改善計画の各視点（1）建学の精神、教育理念・目的、（2）教育研究の方針、（3）地域との共生、（4）運営と管理、（5）関連・補足事項についての検証を行い、平成28(2016)年度から平成32(2020)年度までの5ヵ年計画を常任理事会に提出して使命を終えた。【資料1-3-4】中長期経営計画（平成28年度～平成32年度：5ヵ年計画）八戸学院大学・八戸学院短期大学

平成28(2016)年度からは法人全体の新たな立体的学園構想の策定を目指して、新たに学長を議長とする「新学院構想戦略会議」が設置された。この会議により「新立体的総合学院構想」に基づく法人全体の具体的な改革方針として、①現状の課題と近い将来への危機感の共有、②新立体的総合学院構想に基づく改革の方向性の共有、③限られた経営資源（人、モノ、資金、情報）と限られた時間から選択と集中の方針の共有という3点が示された。【資料1-3-5】新立体的総合学院構想に基づく具体的改革方針

また、この会議の検討事項として次の7項目が掲げられた。

- 1) PPM（ポートフォリオ マネジメント）分析からの選択と集中

- 2) 経営資源の戦略的再編
- 3) 私学らしさの再構築
- 4) 文化・スポーツ・社会貢献の強化
- 5) 高校・大学連携強化
- 6) 系列高校との高大接続強化
- 7) Corporate Identity(CI)の徹底・浸透

さらに、平成29(2017)年度には「新学院構想戦略会議」で検討された改革計画の実施促進、ならびに第三次中期5ヵ年計画の継続審議事項などを検討するため「経営会議」を立ち上げた。

本学の三つのポリシーは、表1-3-1のとおりである。

表1-3-1 八戸学院大学三つのポリシー

平成29年4月1日現在

区分	ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)	アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針)と判定方法
大学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「神を敬し、人を愛する」というカトリック精神に基づき、幅広く深い教養および総合的な判断力と豊かな人間性を身につけている。 2. 現代社会が求めるニーズを的確にとらえ、それぞれの専門的分野において自己の社会的役割を認識し、地域社会の発展に寄与することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の精神にのっとり、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するために、宗教関連科目、リテラシー教育科目、外国語科目等を必修とし、その他、多様なリベラルアーツ科目を選択科目として配置する。 2. 職業イメージや資格・免許の取得を念頭におき、学生の主体的な学修を促すためにコース・プログラム制等を導入し、専門知識と技術が体系的に修得できるようにする。 3. 地域社会の多様なニーズに応え、専門性を身につけ、考える力や表現力を備えた有為な人材を育成するため、学部・学科必修科目、コース・プログラム関連科目、学部・学科選択科目を配置する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「神を敬し、人を愛する」というカトリック精神を理解する人 2. 積極的な勉学意欲を持ち、学問や学生生活などで自分なりに「テーマ」や「将来の夢」に向かって取り組む意欲のある人。 3. 地域社会が抱える諸問題を、意欲的に研究し、他者と協力しながら、粘り強くその解決策を導くことに関心・意欲のある人。 4. 高等学校における「国語総合」または「現代文」、「数学Ⅰ」および「数学A」、「オーラルコミュニケーションⅠ・Ⅱ」または「英語Ⅰ・Ⅱ」の学習を通じて、大学での学修に必要な読解力、表現力、思考力、コミュニケーション力を身につけている人。

区分	ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)	アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針)と判定方法
ビジネス学部 ビジネス学科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、経営・会計・情報・商業等のビジネス学の基礎を身につけている。 2. 地域課題を発見し、分析し、解決するために、公益性・実践力・専門性・採算性の能力を身につけている。 3. 地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、ビジネスに必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学問を修得する基本姿勢(読む、書く、聞く、話す、ITを用いる)を養うために、1年次に基礎演習、プレゼンテーション、日本語リテラシー、情報処理基礎を配置し、2年次以降には将来の進路や学びたい領域に応じて、経営・会計・情報・商業等のビジネス学の基礎的能力を養うために、専門的な研究演習を配置する。また、将来の進路について自主的に考えることができるよう、各学年にキャリアデザインを配置する。 2. 地域課題を発見し、分析し、解決するために、公益性・実践力・専門性・採算性の能力を持った人材の育成を目指し、「経営コース」、「公共コース」を配置する。「経営コース」には、企業において経営・会計・商業等の専門的な知識・技能を持って活躍する人材を育成するための「起業家・ビジネスプログラム」、情報に関する専門家を目指す人材を育成するための「IT・Webクリエイティブプログラム」、農業経営に携わる人材を育成するための「農業経営プログラム」を配置する。「公共コース」には、地方自治体や地域のために活動する人材の育成を目指す「公共経営プログラム」と、商業、情報の教職免許の取得を目指す「教育職プログラム(商業・情報)」を配置する。 3. 公益性・実践力・専門性・採算性の能力を養うために、ビジネス学を学ぶ上で必要な入門科目である必修科目、必修科目を基にさらに専門性を高めた選択科目を、科目の順序性を考慮して配置する。また、ビジネスフィールドワークやビジネス特論(地域活性化システム論)を配置し、授業を通じて地域活動やフィールドワークを行い、海外事情の授業や語学を学ぶための短期海外留学の実施により学生の国際交流を促進し、積極性を身につける。 	<p>ビジネス学の基礎となる「経営・会計・情報・商業」のいずれかの分野に関して、強い興味と関心を持って主体的に学ぶ意欲を有し、将来、ビジネス学の学びを通じて地域社会における様々な課題を自ら判断し、検討し、解決策を見つけ、それを学生や地域の人々と協働しながら実践しようとする意思を有する人。さらにビジネス学を理解するために必要な「基礎学力」、「コミュニケーション能力」を有し、これらの主体性、思考力・判断力・実践力、知識・技能をもつ人を受け入れる。</p> <p>【ビジネス学部ビジネス学科の具体的な受け入れ方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「経営・会計・情報・商業」のいずれかの分野に関して、強い興味と関心を持って主体的に学ぶ意欲を有する。 2. ビジネス学の学びを通じて地域社会における様々な課題を自ら判断し、検討し、解決策を見つけ、それを学生や地域の人々と協働しながら実践しようとする意思を有する。 3. 高等学校における「国語」、「数学」、「外国語(英語)」の基礎科目のほかに、「世界史A」または「世界史B」、「現代社会」または「倫理」・「政治経済」、「社会と情報、情報の科学からの1科目」を学習し、十分な基礎学力を身につけている。 4. 資料や文章を読む「読解力」を有し、自分の理解や考えを口頭や文章、プレゼンテーションにより適切に表現する「表現力」などの基本的な「コミュニケーション能力」を有する。 <p>【入学者選抜における判定方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「経営・会計・情報・商業」のいずれかの分野に関して、強い興味と関心を持って主体的に学ぶ意欲については、書類審査と面接により判定する。 2. ビジネス学の学びを通じて地域社会における様々な課題を自ら判断し、検討し、解決策を見つけ、それを学生や地域の人々と協働しながら実践しようとする意思については、書類審査と面接により判定する。 3. 高等学校で学習した主要科目について、十分な基礎学力を身につけていることについては、書類審査と学力検査により判定する。 4. 読解力・表現力などの基本的なコミュニケーション能力については、書類審査と面接又は小論文により判定する。

区分	ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)	アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針)と判定方法
健康医療学部人間健康学科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。 2. ころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。 3. 医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力、地域文化の理解を養うために、建学の精神に関する科目、基礎演習、日本語リテラシー、情報処理基礎、語学、地域文化論等の必修科目を含む多様なリベラルアーツ科目を配置する。 2. ころとからだに関する健康科学の教養を獲得するための学科必修科目と、医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野の基礎と実践力を身につける学科選択科目、将来の進路について自主的に考えるためのキャリアデザイン科目を配置する。 3. 現代社会の健康ニーズに対応できる能力の育成を目指し、「スポーツ科学コース」と「健康科学コース」の2コースをおき、資格・免許の取得のために「スポーツ科学コース」には「教育職プログラム（保健体育）」、「トレーニング指導者プログラム」、「健康科学コース」には「教育職プログラム（養護・保健・看護）」、「認定心理士プログラム」「社会福祉士プログラム」をおく。 	<p>深い教養とリテラシーを身につける意欲と、ころとからだに関する学問領域に強い興味と関心を持って主体的に学ぶ意欲を有し、医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野の学びを通じて、将来において、現代社会が求める健康ニーズに先駆的に取り組んでいこうという強い意志を持っている人を受け入れる。</p> <p>【健康医療学部人間健康学科の具体的な受け入れ方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 深い教養とリテラシー、ころとからだに関する学問領域に強い興味と関心を持って、主体的に学ぶ意欲を有している。 2. 現代人の健康ニーズに先駆的に取り組んでいこうという強い意志を持っている。 3. 「教育職（保健体育）（養護・保健・看護）」、「トレーニング指導者」、「スポーツリーダー」、「認定心理士」、「社会福祉士」の資格取得を目指している。 4. 高等学校における「国語」、「数学」、「外国語（英語）」の基礎科目のほかに、「科学と人間生活」、「生物基礎」、「生物」のいずれか1科目を学習し、十分な基礎学力を身につけている。 <p>【入学者選抜における判定方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 深い教養とリテラシー、ころとからだに関する学問領域に強い興味と関心を持って主体的に学ぶ意欲を有していることについては、書類審査と面接により判定する。 2. 現代人の健康ニーズに先駆的に取り組んでいこうという強い意志を持っていることについては、書類審査と面接により判定する。 3. 「教育職（保健体育）（養護・保健・看護）」、「トレーニング指導者」、「スポーツリーダー」、「認定心理士」、「社会福祉士」の資格取得を目指していることについては、書類審査と面接により判定する。 4. 高等学校における「国語」、「数学」、「外国語（英語）」の基礎科目のほかに、「科学と人間生活」、「生物基礎」、「生物」のいずれか1科目を学習し、十分な基礎学力を身につけていることについては、書類審査と学力検査により判定する。

区分	ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)	アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針)と判定方法
健康医療学部看護学科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。 2. 科学的な根拠に基づく基礎的看護ケアを実践し、多くの医療関係職種と連携・協働して看護の役割を判断し行動する能力を身につけている。 3. 僻地や医療過疎地など地域特性の理解のもと、地域の看護活動に積極的に取り組むことのできる基礎的な看護実践能力を身につけている。 4. 地域住民の健康特性の理解のもと、地域の看護活動の向上に資するための基礎的研究方法を身につけている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を、地域文化の理解を養うために、建学の精神に関わる科目、基礎演習、日本語リテラシー、情報処理基礎、語学、地域文化論等の必修科目を含む多様なレベルのアーーツ科目を配置する。 2. 看護専門職になるうえで必要な基礎的知識や実践能力を養うために、専門導入科目と専門基礎科目をおき、「人間と健康」、「環境と健康」の2領域を設ける。 3. 看護師・保健師としてのものの見方や考え方、基本的な看護技術、看護理論、多様な場での看護実践と研究方法を身につけるため、「看護の基本」、「看護の展開」、「看護の統合・看護の発展」、「看護の研究」、「公衆衛生看護」の5領域からなる「専門科目」をおく。 4. 看護師・保健師の国家試験受験資格を取得させるため、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の教育内容を踏まえた教育課程の編成とする。 	<p>看護師・保健師になる強い意志を持ち、将来において医療関係職種の一員として主体的に行動し、地域の看護活動に携わる高い意欲のある人を受け入れる。</p> <p>【健康医療学部看護学科の具体的な受け入れ方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間を理解し、共感する知性と感性を磨き、援助的人間関係を築こうとする意欲を有する。 2. 看護師・保健師としてのものの見方や考え方、基本的な看護技術、看護理論、多様な場における看護実践を主体的に学ぶ強い意欲を有する。 3. 多くの医療関係職種と連携・協働して、地域の看護活動に貢献する基礎的研究方法を身につけようとする高い意欲を有する。 4. 高等学校における「国語」、「外国語(英語)」の基礎科目のほかに、「生物基礎」、「数学Ⅰ」、「数学A」のいずれか1科目を学習し、十分な基礎学力を身につけている。 <p>【入学者選抜における判定方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間を理解し、共感する知性と感性を磨き、援助的人間関係を築こうとする意欲については、書類審査と小論文および面接により判定する。 2. 看護師・保健師としてのものの見方や考え方、基本的な看護技術、看護理論、多様な場における看護実践を主体的に学ぶ強い意欲については、書類審査と小論文および面接により判定する。 3. 多くの医療関係職種と連携・協働して、地域の看護活動に貢献する基礎的研究方法を身につけようとする高い意欲については、書類審査と面接により判定する。 4. 高等学校における「国語」、「外国語(英語)」の基礎科目のほかに、「生物基礎」、「数学Ⅰ」、「数学A」のいずれか1科目を学習し、十分な基礎学力を身につけていることについては、書類審査と学力検査により判定する。

1-3-④ 使命・目的及び教育目的と教育研究組織の構成との整合性

本学の教育研究組織は、ビジネス学部ビジネス学科および健康医療学部人間健康学科・看護学科の2学部3学科と、附置機関である八戸学院図書館、八戸学院地域連携研究センター（以下、地域連携研究センター）により構成されている。両学部とも学部の特性を活かした教育理念・教育目的に基づき、それぞれの専門的分野において自己の社会的役割を認識し、地域社会の発展に寄与することができる人材の育成や地域経済・地方文化に密着し

た教育、地域をキャンパスとした教育活動を行っている。地域連携研究センターは「八戸学院地域連携研究センター規程」第2条に基づき、実践的な教育としてのフィールドワーク活動の中核となっている。【資料1-3-6】八戸学院地域連携研究センター規程

(3) 1-3の改善・向上方策（将来計画）

新たに設置した「経営会議」は、中期経営計画の達成度の検証を行うとともに、新たな経営計画の立案と実施に向けた取り組みを行う。

【基準1の自己評価】

本学は建学の精神および教育理念に基づき、「カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を授け、深い専門の学術を探求せしめ、正しい道德観と高い知性を有する民主的にして平和を愛する人材を育成する」ことを使命・目的と定めている。本学の教育目的は学校教育法および大学設置基準に基づき、簡潔かつ具体的に学則に定められている。

学内外への周知は、本学公式ホームページや各種印刷物に明示されている。教職員に関しては教授会などの会議体によって周知徹底し、学生に関してはオリエンテーションなどで理解促進を図っている。また、企業や行政との連携協定など、本学が広く注目される機会を活用して地域社会に対して、より一層の周知を図っている。

平成 25(2013)年度には文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に基づき、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）に高等学校での学修に関する項目を追加した。また、平成 27(2015)年 2 月には、平成 25(2013)年度から学年進行で実施されている「高等学校学習指導要領」に基づき、ビジネス学部のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）を一部変更した。さらに、平成 28(2016)年 4 月には、健康医療学部看護学科の増設に伴い、大学全体のカリキュラム・ポリシーおよび健康医療学部の教育理念、教育目的、教育目標を一部変更した。

なお、平成 29(2017)年 4 月には、三つのポリシーに関する学校教育法の改正趣旨にしたがって、各ポリシー（方針）相互の一貫性を重視した内容に変更した。

「新学院構想戦略会議」は、検討事項として

- 1) PPM（ポートフォリオ マネジメント）分析からの選択と集中
- 2) 経営資源の戦略的再編
- 3) 私学らしさの再構築
- 4) 文化・スポーツ・社会貢献の強化
- 5) 高校・大学連携強化
- 6) 系列高校との高大接続強化
- 7) Corporate Identity(CI)の徹底・浸透

などを提示した。

また、地域連携研究センターは、平成 26(2014)年度に従前の組織を改組・名称変更して実践的な教育としてのフィールドワーク活動の中核となっている。